

## タイ訪問とメコン・プロジェクトの展開

本年（平成29年）1月5～12日、人文社会科学研究科・経済学部の副学部長田口博之教授、キティ・リムスクル教授、長島正治教授、ワンウィワット・ケサワ研究員が、ゼミ学生とともに、タイの大学を訪問し、学生間の研究交流を図るとともに、平成28年度から推進しているメコン・プロジェクトの今後の進め方について話し合いを行いました。

1月6日午前は、チュラーロンコーン大学の経済学部において、ウォラウエット学部長、シリマ副学部長の参加の下、当方のゼミ学生より「日系中小企業の海外進出における現地化」、「労働移動の理論モデルと日本の経験」をテーマに研究発表をそれぞれ行い、先方の学生と活発な意見交換を行いました。また同日午後には、チュラーロンコーン大学のアセアン研究センターを訪問し、ピティ所長等との間で、メコン・プロジェクトについて、昨年9月の当方主催のワークショップに続く次のステップとして、同センターが中心となって、本年秋を目途に「メコン地域の人材開発」をテーマとする出版物をとりまとめ、またその報告会を開催する旨合意しました。

1月9日には、チェンマイ大学を訪問し、ローム副学長との間で、キティ教授（当方）とウォンコット教授（先方）との間で進められている気候変動に関する研究を皮切りに共同研究を進展させ、メコン・プロジェクトのなかで位置づけていくことに合意しました。1月10日には、メーファロン大学を訪問し、チャヤポン副学長との間で、同大学も国境経済をテーマとしてメコン・プロジェクトに参加していく方向で合意が得られました。

今後とも、メコン・プロジェクトについて、このタイ訪問を契機として、出版物の発行、ワークショップの開催、協定校の拡大等、充実を図っていくこととしています。



チュラ大での研究発表



チュラ大での学生の意見交換



チェンマイ大でローム副学長と



メーファロン大でチャヤポン副学長と